

2025 年度 第 3 回上信越ブロック協議会 議事録

2025 年 12 月 18 日

13:45~16:00

Zoom 開催

司会：山田 時代 副会長（新潟）

議長：小山 恒弘 会長（新潟）

出席者：22 名

日本代協 雨宮理事

長野代協 中澤 駒澤 桐島 高木 山口 竹内 三輪 志摩 8 名

群馬代協 中田 久保田 中島 高野辺 田中 南雲 6 名

新潟代協 小山 小川 山田 鈴木 庄田 桑原 木村 7 名

新潟代協 斎藤（事務局）

議事録作成者：新潟代協 小川副会長 事務局斎藤

議事録確認者：長野代協中澤会長 群馬代協中田会長

挨拶（小山会長）

全国の会長懇談会で愛知県の支部活性化のお話がありました。長野代協さんも行っている、各支部が独自で動いているという状況、それと参加率について、非常にご苦労されて 50%以上の参加を促している支部が 3 つぐらい確かあったと思います。色々と工夫をされているかと思いますが、皆さんのご協力がないと進めていけないということでございますので、ひとつよろしくお願ひします。

挨拶（雨宮理事）

先日のブロック協議会の公開セミナー、ご苦労様でした。素敵なセミナーでした。高校野球選手が、プロバスケットボールチームの社長を務めていらっしゃるということで、大変に興味深い話を聞かせていただきました。公開セミナーの開催にあたり群馬代協の皆様には大変ご尽力いただきました。こうした仕事から受け取る出席者からの感想や反響は非常に価値があるものと思っております。また中田会長の希望だったオープンアリーナでの開催が次回以降できるのも期待しております。

さて金融庁の方からパブリックコメントが発表されました。保険会社向けの総合的な監督指針の案の 2 つです。一つは特定大規模代理店に関する指針、もう一つは、私たちにとって極めて興味深い比較推奨販売に関するものです。早々に本日、日本代協より金澤専務に詳細説明していただいている動画が配信されております。このとても早いリリースにはいち早く皆様に最新情報を分かりやすくお伝えしたいという日本代協の思いが込められています。

是非、ご視聴ください。一連の流れの中の過程で今年から代理店自己点検の試行が始まり、来年の本格稼働に向けて、今まさに業界は大きく変わりつつあります。皆様には貴重な情報をたくさん集めていただいて活用していただきたいと願っています。本日の協議会、よろしくお願ひいたします。

【審議事項】無し

報 告

□報告事項 1

3 県会長からの現状と課題についての報告は下記の通り

代協名 会長名	現状と課題
長野代協 中澤純一	<p>■現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月23日：第2回理事会開催 ・11月7~8日：日本代協コンベンション参加 ・11月19日：教育・組織委員会合同セミナー 「損保業界の最新動向と今後の保険代理店のあり方」 講師：金澤専務理事 ・11月28日：東北信合同セミナー 「AI時代の保険代理店像」講師：あいおい損保 千葉晃久氏 ・11月：事業見直し委員会→会員へアンケートメール配信。 ・12月20日：「防災セミナーin長野」共催 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支部の活性化…会員へアンケートメールを配信。「代協活動に何を期待し、どうすれば参画いただけるのか」を問い合わせ、会員の声を集約する目的。その結果を基に、次年度の戦略を策定する。
群馬代協 中田全一	<ol style="list-style-type: none"> 1. 12/12 上信越ブロック公開セミナー開催終了、課題について 2. 1/23 損保協会共催の地震保険セミナー開催予定 3. 支部活動の活性化について、今年度の支部間での活動に差があるため残りの期間をどのようにしていくか 4. 代協アカデミーの普及について、現在の時点で増えていないのが実情です。 5. 昨年に引き続き会員へのアンケートを実施する。会員の声を活かす工夫をしていく。 6. 財務状況の改善に向けて
新潟代協 小山恒弘	<p>10/11 防災向上セミナー 来場者関係者含め 120名</p> <p>11/7.8 日本代協コンベンション参加 7名</p> <p>11/12 仲間づくり、コンサル申込保険会社訪問</p> <p>新潟代協会費改定について継続協議中</p> <p>定款内容について協議中、各規程内容について精査中</p> <p>次年度総会 6/4 開催予定、記念公演講師に日本代協企画環境委員長 松本一成氏に依頼</p>

長野代協・中澤会長補足

代協活動に参加いただけてない方を何とか活動に出てきていただこうという趣旨で、全会員へアンケートを一斉メール配信。年明けぐらいに集約予定。

どうやって支部活動を今一度活性化するのかというのが、長野県代協の課題であり、小規模の支部の統廃合を何度も協議させていただきましたが、協議の結果合併はせずにそのまま引き続き活動していくということに落ち着きはした。これは県全体の問題でもある為、今後このアンケート、会員の皆様の声を集約して、次年度活動の重要なテーマとして捉えていきたいと考えています。

群馬代協・中田会長補足

支部の間で大きな活動の差がある。例えば月に2回、3回いろんな集まりやセミナー開催がある支部としてない支部があり、残りの期間どのように支部活動ができるかを考えていきたいなというのは感じています。

ホームページに色々な情報を載せるような形で情報発信をし、会員の声を活かしていく工夫をしていきたいなと思っています。

会員の合併により代理店の数が増えてない為、改善策を考えていきたいと思います。

新潟代協・小山会長補足

会員の条件等の定款の変更を考えている。

今後県主催のセミナーやイベントについて各支部持ち回りにし、支部活性化を図りたい。

会費改定について、今年一年かけて考えていこうということで、毎理事会において、一つずつテーマを決めて進めております。できれば、来年の6月の総会にかけて、承認をいただく方向で行っています。

□報告事項2

4委員長からの現状と課題についての報告は下記の通り

委員会名 委員長名	現状と課題
組織委員会 山口哲也 (長野代協)	(新潟代協) 入会：5会員 退会：5会員 (12月中退会1予定) ・各保険会社の動きが活発になっており、合併、統合、吸収による減少が加速。 ・今まで以上に皆で情報を持ち寄りより良い代協に変容していく必要。 (群馬代協) 入会：7会員 退会：6会員 (合併廃業：4件、メリットなしと判断：1件、活動参加が難しい：1件) ・新入会員の代申内訳 (損保ジャパン3件、あいおい2件、三井1件、日新1件) 日新以外の会員が増員。 ・各保険会社の支店を訪問し代理店賠責セミナー案内した効果。 (長野代協) 入会：3会員 退会：7会員

	<ul style="list-style-type: none"> ・成島アドバイザーのご都合により、セミナーの実施が困難になり、未加入代理店に向けてのアピールに関して再考が必要。 ・退会が例年なくハイペースで進んでいるが、まずは目標数達成の目途をつけることに注力。 ・会員に未加入代理店へ声かけしてもらうよう依頼。 ・日新火災、あいおいの支店長に改めて見込み代理店紹介を依頼。 <p>11/5（水）第4回日本代協組織委員会（Zoom開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代理店賠責勉強会 遡及日の重要性確認（更新手続きの締切日厳守） 代理店合併時の取り扱いについて ・2026年度仲間づくり推進・目標値（ガイドライン） <ul style="list-style-type: none"> 新潟：6会員 群馬：7会員 長野：6会員 ガイドラインを参考に各代協で目標設定 ・代協の活性化について <ul style="list-style-type: none"> 「組織委員会が率先して汗をかく」 愛知代協の活動を事例共有…活動に参加している会員が参加できていない会員に積極的に声かけ・訪問しイベント参加を促す（担当者を決める）。
企画環境委員会 田中孝司 （群馬代協）	<p>10/27 第3回企画環境委員会</p> <p>→不公正募集の報告と共有（不公正募集17件、特定修理業者1件）、代理店価値向上策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメント講座の受講者 <p>基礎73名（+15名）リスク診断士52名（+2名）保険財務15名（+1名） 保険RM23名（+9名）法人生保13名（+1名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JSA-S1003 <p>目標宣言65社（+1社）活動実施14社（+4社）認証取得4社（+1社）</p> <p>1/13 第4回企画環境委員会</p>
教育委員会 木村修一 （新潟代協）	<ul style="list-style-type: none"> ○今期最後のコンサル受講者WEB運営が12/3にあり、スタッフの確保に困ることなく終えられそうです。 ○12/1よりコンサルティングコース受講者募集が始まり各県の目標数に向けて県教育委員長とも連携済みです。 ○アカデミー会員数の確保に非常に苦戦しています。 繼続に関しても入金漏れが目立ち何か対策が必要と感じています。 ○教育委員の組織において役割を各自がしっかりと認識していかないと個の負担が多く目立ちます。 <p>上信越ブロック教育委員長 ⇒ 各県教育委員長 ⇒ 各県支部教育委員</p>

	<p>⇒ 各県支部会員</p> <p>この組織図に基づいて各役員との連携を図り、責任をもった組織作りが今後必要になると考えます。</p>
CSR委員会 南雲正 (群馬代協)	<p>2025 年度ぼうさい探検隊マップコンクール 提出：新潟 3 団体 4 マップ 長野 7 団体 9 マップ 群馬 3 団体 3 マップ 全代協では、192 団体 373 マップ 地震保険の普及／無保険車追放・盗難防止／献血活動等／交通安全普及活動などの計画立案 「子ども 110 番の家」代協会員の登録勧奨 出前授業・出前講座への取組の推進 1 月 16 日 日本代協 CSR 委員会 WEB 開催予定</p>

組織委員会・山口組織委員長の補足

各保険会社の動きが活発になっており、合併統合吸収が加速、会員が減少傾向です。

代理店賠責の勉強会で改めて言われたことが遡及日です。遡及日の重要性というのを改めて確認していただくようにという事です。遡及日を確保するために更新をしっかりしましょうということと、合併とか吸収が進んでいる昨今ですので、その対象になった代理店さんが気をつけなければいけないことがまとめて資料に記載されており、そちらもぜひ皆さんにお目通しいただいた上で、そういった代理店さんが周りにいた時には、お声掛けアドバイスをお願いします。基本的には解約をしないでという事です。代理店賠責は合併した代理店先によっては途中で代理店賠責をやめることなく続けることで遡及日を確保できるという事もあるので確認が必要になります。

また皆さん来年は理事の方が変わったりするところもあるかと思いますが、更新手続きの際は締め切り日をぜひ厳守し、更新忘れの代理店さんが起こらないように理事の皆さんでフォローしていただければ嬉しいなと思います。

企画環境委員会・田中企画環境委員長の補足

不公正募集に関して、お客様から報告や耳にした時に報告書を各県代協企画環境委員長にあげていただくが、その際にお客様の名前、ディーラーの名前を公表する際、匿名でも結構ですので挙げて下さい。取りまとめをする際、値引き募集あるいは圧力募集が何件という形でまとめて報告をあげますので、件数が多かった方が、日本代協の目に留まりやすいということがありますので、名前を出さなくても結構ですので、ぜひ報告を多く挙げてください。

価値向上策については、資料記載の通り、リスクマネジメント講座、JSA-S、わずかずつではありますけれども、実施をされている方が増えつつあります。改めて、それぞれの特性、効果を確認いただければと思います。

リスクマネジメント講座に関しては募集人のスキルアップ、JSA-S に関しては体制整備に関係するところです。社労士、こちらはお客様の採用、あるいは従業員の安定化に対して効果的という事です。

ジギョケイに関しては、こちら一番全国的に動きが多くなっておりますけれども、お客様の防災に対する意識、結構ニーズが強いのが補助金です。生業再建支援金を申請するときには、ジギョケイが必要になってくるというところで取得される企業さんが増えております。事業者開拓の面でも、このジギョケイはかなり有効です。

教育委員会・木村教育委員長の補足

コンサルティングコース申込、今回は多くなることが予想されている。定員2,200名となり次第申込受付を終了予定です。

アカデミー会員数の確保は非常に苦戦しています。継続に関しても入金漏れが目立ち、入金漏れの後どのように手続きを取ったらいいか分からなまま失効するケースがあります。周りにそういった代理店さんがいらしたら、手続き応募の確認をしていただければと思います。

教育委員の負担が非常に大きいところが問題になっているというところで、教育委員の組織連携をしっかりやっていかないと、今後運営が難しいのではないかなというふうに私なりに考えています。各県の教育委員長さんはしっかりやっていただいて、ここまでいいがその後、支部、教育委員、そして各県支部の会員までに、連絡事項、何をどのようにやればいいのかというような連絡がしっかりできているかというと疑問な部分があります。県によっては支部の教育委員がいないというような声も聞いています。代協として組織づくりをしっかりやっていかないと、何の意味の教育委員なのかというのも分からなくなってしまいますので次年度はそのところをしっかりとやり、連携もしっかりと、各人が責任を持って役割をやってもらえるような形にしていくのが課題だと思います。

質疑応答

新潟代協 桑原組織委員長 Q:「教育委員会はどのような苦労があるのか」

A:毎月最低でも2回会議開催、アカデミーのコンテンツを作らなければならない。

CSR委員会・南雲CSR委員長の補足

ぼうさい探検隊は本年から団体数だけでなくマップ数までカウントする事になりました。一旦 2025 年終了しましたが、応募用紙の集計のアンケートが出て年明けたらもう 2026 年の、その案内が始まります。

地震保険、盗難、献血活動、交通安全復旧などについては、各地域が当初の計画に基づいて、推進をして取り組んでいます。

こども 110 番の家、代協会員の登録勧奨については少しずつですが進んでおり、群馬においては新規会員の入会とともにこちらの案内も合わせて行っているというような状況で取り組みは進んでいると聞いています。

出前授業、出前講座への取り組みについては、確認をとっているところで、年間を通じてちょっといろいろ計画を立てないと、この辺がうまく実行できないので、今の段階では、これを来年に向けてどうやって計画を立てていくかというところが、今の大変な課題であるというふうに認識しております。

□報告事項3

公開セミナー報告（群馬代協）

参加人数はリアルとウェビナーで92名の参加でした。自身のご経験とコミュニケーションについての流れ、教員生活におけるコミュニケーションについてのご講演をいただきました。

10月16日よりご案内を開始した当初は集客に苦戦したものの、それなりに集客は出来たが、ウェビナーについては11名ということなので、この点については検討の余地あり。費用については当初33万の予定が結果的に21万に抑えることができた。

公開セミナーの企画にあたり、どういう人たちを対象としてセミナーを開催するのかというのを、当初計画の時に非常にいろいろな議論を行いました。前回、群馬代協が行った公開セミナーは、群馬県内、日本で災害における権威のある大学の先生だったので、一般の方も含めて140名ほどの参加があり多くの方から聞いていただけた。今回はバスケットボールのコーチを呼び、小学生、中学生のバスケットボール教室を開催後、このような講演もということで、人数500人ぐらいを想定して計画したが変更ということになってしまった。開催時期について、12月というのは、雪により県外の参加がちょっと困難になる。それとインフルエンザ等による不参加者が何名かあり、開催時期ということについても検討していく必要があると思いました。代協会員、保険会社以外をいかにして呼ぶかというのは、平日の昼間というのはなかなか難しいと感じた。やはり土日開催での計画でないと多くの方っていうのは難しい。講演の内容について、参加者からは好評だったので非常に嬉しかった。

□報告事項4

日本代協コンベンションご当地PR報告（新潟代協）

各代協の担当者と3回Webで打ち合わせをし、いろんな形でお酒の銘柄を決めていった。当日は、商品説明を聞いていただけないままスタートしてしまった事には驚いた。中田会長も中澤会長もブースに入っていただき、お手伝いしてくださいました。ありがとうございました。本当にどんどんどんどん人が来られて、各保険会社の社長さんなんかも来られている中で、非常に美味しい美味しいということで感動していただいたと思っております。

銘柄は資料の通りですので皆さんも、今後何か飲みたいというのがありましたら、各県代表にお問い合わせいただいて、取り寄せていただくことも可能ではないかと思っています。

費用については、10万の予算で予算内に収まった。関係者の皆さん、本当に大変どうもありがとうございました。

□日本代協関連事項概要報告（雨宮理事）

12月4日に開催された第5回理事会の議事内容及び決定した内容を皆様にお伝え申し上げます。

また金融庁の方から特定代理店、乗り合い代理店に関する指針と、我々一番興味のある比較推奨販売に関してのパブリックコメントが出ております。

まず小田島会長のご挨拶です。

いよいよ師走となり、何かと気忙しい時期に入りました。本日の理事会、そして明日の全国会長懇談会につきまして、どうぞよろしくお願ひいたします。さて、大分県では大規模な火災が発生し、多くの方々が被災されました。心よりお見舞い申し上げます。また、海外でも思いがけないマンション火

災が発生するなど、こうしたニュースに触れるたび、保険に携わる私たちとしても胸がざわつく思いがいたします。万一の際、事業や生活再建を支えるのが保険であり、お客様が困らないよう「正しい保険」の普及は極めて重要です。現在、プロテクションギャップなど懸念される課題もありますので、お客様の声、そして私たちの現場の声を引き続き発信してまいりましょう。先月の日本代協コンベンションは皆さまのご協力により、盛会のうちに終了となりました。誠にありがとうございました。金融庁監督局保険課・保険代理店監督企画室の白藤室長にもご臨席いただき、私たち代協会員が高い関心を持って学んでいるテーマについて、直接知っていただく貴重な機会にもなりました。参加した会員の皆さまから「充実した時間だった」との声を多くいただき、大変うれしく思っております。次回のコンベンションに向けて、今回のご意見を活かし、期待を超える内容につなげてまいりましょう。本年度は、業法改正に伴う代理店の今後のあり方や、代理店自己点検の取り組みなど、例年以上に会員の皆様へお伝えすべき情報が増えています。金澤専務にも各地へ足を運んでいただき、セミナーなどで積極的に発信を続けていただいている。今この時期を、個々の会員の皆さまがしっかりと捉え、自社経営に活かしていただけるよう、引き続き必要な情報を的確にお届けするとともに、取組みの声を各方面へ届けていく所存です。私たち代理店は、お客様と保険会社をつなぐ重要な接点として、大きな役割を担っています。その存在意義を社会に広く知っていただけるよう、引き続き努めてまいりましょう。

というご挨拶からスタートさせていただきます。

審議事項に2026年度の事業活動の計画に関して、皆様から意見をいただいております。

これに関して審議を行い（資料の2P参照）各代協、ブロックからご意見が上がりました。

東関東ブロックからブロック協議会のWeb開催に関する規定を作成した方がいいではないか、また、人材育成セミナーの開催時間が、2年に1度を変更したほうがいいのではないかということで、討議の結果、対応は△という形になりました。ブロック協議会が今、Webで開催しているので引き続き継続をお願いしたい。また、人材育成研修会のスパンに関しては、改めて来年度以降、開催のスパンについて検討して行きたい、という回答です。

神奈川代協は日本代協独自で、新人の教育システムをリリースしてはどうかの提案。昨今新しく人材を採用する代理店が多くなっているので、人材を育成するツールがないと困るということで、日本代協に作ってもらえないかということです。現在、日本代協アカデミーでも同様の内容に関してのメニューが構成されているので、しばらくはアカデミーを使ってほしいという回答です。

東京代協からは現在都道府県下で各代協の会員管理システムを日本代協で統一して作った方がいいのではないかとの意見。ACCESSをベースにして今管理しているが、20年使用していくと古くなっていますので、リニューアルも含めて、会員の管理システムを構築していくという形になりました。

自己点検チェックシートに関しての取り組みを全体でまとめて、代協として展開していくということは△です。

愛知代協は日本代協の広報委員会の予算を作り、全国のホームページ作りを日本代協が運用するという提案が出ており△になっています。実情としてホームページを全国統一で運用することの是非の検討も必要であり、ホームページの改定に関しては、広報委員会で継続をしていくことの回答になっています。

活力研には大手 4 社の参加部署（法人チャネル、モータースチャネルの参加）をもっと拡大したいという声も届いていますが△です。プロチャンネルに特化したテーマだけでは内容がなくなってきている為、保険会社には活力研の論議内容を関係部署にもしっかりと伝えてほしいと依頼している。

福岡代協はブロック協議会の運営ガイドラインを改定したらどうかということで、地域担当理事とブロック長の位置づけを明確する等。開催頻度その他出席者の対象を見直す等。これは一応△、この内容に関しても今後、出席者その他に関しての明確化、規則の改定等も行っていくという形になりました。

また、ビジョン委員会の復活を望むということもあがっています。

以前ビジョン委員会というのがあり、委員会とは別に一つの委員会として権限を持った委員会がありました。今後の業界、代理店の動き、日本代協の進んでいく道、新しく取り組むべき事業に関しての、討議をしていましたが、現在は魅力研が引き継いでいます。今のところまだ研究会という形になっています。魅力研は継続しつつ、今後日本代協として論議・検討すべきことを明確にしたうえで、委員会の新設が必要かどうかを判断したい。

長崎代協は、日本代協のあり方に関して、改革を求める意見が出ています。

これは目指すべき方法が大きく異なっているので、今回は検討しない事となりました。

2026 年度、「仲間づくり推進」入会目標ガイドラインが決まりました。先ほど、山口委員長の方から発表がありましたが、全国目標合計は「299 会員」にするという形になりました。2025 年度 3 月末。現在のみなし専業未加入代理店数の 2% に、みなしオールチャネル未加入代理店数の 0.1% を合算した数値とします。専業未加入代理店 50 店につき 1 店に加え、オールチャネル未加入代理店 1000 店につき 1 店を会員にすれば、各代協の目標を達成することができるということで設定とさせていただいています。また、組織率が 80% 以上の福井京都ほかの代協に関しては、みなし専業代理店 2% を適用せず、オールチャネルベースのみ。上信越ブロックでの目標数は、新潟 6、群馬 7、長野 6 です。

日本代協アカデミーの独自コンテンツに関して、コンテンツの継続、投入を推進し、さらに強化していくことが承認されました。コンサルティングコースについては、大改訂の準備にとりかかっている。具体的には、日本代協教育委員会と損保協会募集教育グループにおいて、ワーキンググループが設置されて、カリキュラムテキストの改定に向けた協議を実施している状況です。こういった面でも、教育委員の皆様には負荷をかけることになるが、さらに、11 月 26 日に開催した損保協会との合同会議では、改定作業の推進スピードを加速するために、タスクフォースの導入が決定され、5 科目において分担運営を行う事となりました。また、業界における資格の高度化に向けた動きに応じて、指定教育機関としての責務を果たすことは必須であり、現在、教育委員会で展開している 3 つの PT をテキストカリキュラム PT とアカデミー PT の 2 つに絞り込んで進めるということで、これも教育委員会の中で決定確認済みという形になります。木村委員長には、いろいろ本当にお世話になっております。代理店の取材におけるコンテンツの作成は、本当にいいコンテンツが出来上がり、もうすでにコンテンツ取材という形で展開いただいている。木村さんは、ご苦労とお時間、お金もかけて取材に行っていただきました。大変に残念なのですが、このコンテンツは今年度をもって中止することとなりました。完成した内容は十分に素晴らしいものですので、皆様にはしっかりと確認して把握をしておいていただきたい。このような背景および今後の教育委員会における選択と集中の観点から、提言内容の中の代理店 取材に関する費用を削除した内容をもって了承されました。

費用の改善に関して、資料 28 ページ、これはブロック協議会の対策費に関する分配です。

1 代協に関して 10 万円のブロック対策費が渡されていたが、この分配を 1 代協 15 万円になりました。1 ブロックにたくさんの会員さんがいらっしゃる、代協があるブロックは金額が増えます。

会員数の分配率は、今まで 100 会員あたり 6 万円のブロック対策費用であったが、これを 4 万円に引き下げる形になりました。これはブロックの数が多いということはエリアが広いという考え方になり、この場合は移動費が一番高いということです。この改正が加わった為、東京代協のように、非常に大きな人数がいるところに関しては、逆に移動費があんまりかかるないので必ずしも会員数ではないという事です。このために会員数に対しての比率は下げた。次年度のブロック協議会は、上がったり下がったりするところがあるが、上信越ブロックに関しては金額的には 3 万円増えたという形になります。現行の分配が、106 万円ですが、次年度は 109 万円になります。人材育成には変わらないので、配分額小計の 1/2 になります。

広報委員会の出張費に関して、2026 年度より広報委員の出張旅費を予算化すること、出張旅費総額を 30 万円とし、各ブロック年 1 回の出張に限るものとすること、参加が必要な場合は事前に広報委員長に連絡すること、他委員会と同様に旅費規則に基づき請求するものとすること、Web 活用の推進がなされており、基本的にはそれに従うものとすることが決定されました。

日本代協の第 14 回コンベンションに関して、総括がありました。式典は、総勢 426 名、懇親会は 580 名の盛大な参加となりました。例年通り“集い・語らい・高め合う”学びの場として、テーマに沿った基調講演、代協会員によるパネルディスカッション、翌日の分科会まで業界関係者を交えたコンベンションでした。基調講演に関しては、おもしろ旅企画ひらたやの平田信也氏から講演いただき、続いて錦野監事と金澤専務理事がパネラーとなり、大和理事の進行で、今後の代理店の目指す方向性についてパネルディスカッションを行っております。基調講演の平田さんは日本旅行のカリスマ添乗員ということで、どうすればお客様が喜んで、お客様が感動するかというお話をしました。お客様から信頼され、選ばれる人になるためのいろんなエッセンスをお話しいただきましたが、その中でも印象的だったのが、サービスとは何かということで、サービスというのは言われる前にやるのがサービスであり、言われてからやるのは作業だということです。お客様に感動を与えるためには、言われる前に思いついて先に動きなさいということでかなり引き込まれる貴重講演でした。

第二部の懇親会では、各保険会社の社長をはじめ、業界関係者、総勢 508 名の皆さんに参加していただき盛大に開催することができました。参加者からは非常に高い評価をいただいています。また運営面に関しては功労者表彰の紹介が長くなりすぎたので、次回以降は功労者表彰の時間を確保するなどの時間配分をしっかり考えいこうという事になりました。

それとアンケートを実施したが期限内の回答が 81% と少なく、後追いによって 94% まで揃いました。

委員会報告という形で、各委員会からの発表がありました。こちらの方は資料編の 30 ページから。各委員長の方が発表しています。こちら皆様、もう一度ご覧いただければと思います。

組織仲間づくりに関して、藤山委員長から説明がありました。今年に関しては非常に早いピッチで、仲間づくりに関しては進捗をしており、全国の進捗率は 92% ということです。順調に推移していま

す。各地の活動に感謝申し上げます。今、我々代理店を取り巻く環境が極めて先行きが見えず不安定になり、保険会社からの情報も下りてこないということも原因の一因かと思われます。

問題なのは、こういった入っていただいた会員の方々が、ただ情報だけ、ないしは賠責だけではなく、本当に活動に参加をしていただいて、代協活動を通じて、本当に良かったなと思っていたらしくこれが大事です。

日本代協のアカデミーの展開に関して、アカデミーは先ほどご報告があったとおり、非常に厳しい状況になっております。皆様のご協力を是非ともお願いしたい。コンテンツの充実を進めておりますので是非ご活用ください。

コンサルティングコースは12月1日から募集開始し、東京代協はすでに12月の理事会のタイミングで定員をすでに達しました。本当にすごいスピードで皆さん入ってきています。代理店ポイントに入ったということもありますし、三冠王の中に今後トータルプランナーを入れていくのがいいのかどうなのかということも含めて検討していかなければならないということと、このペースで行くと定員オーバーになってしまう可能性がありますので、2200を超えた瞬間でそれ以降の募集をしなくなるという形になっておりますので、ぜひ受けたい方は早くお申し込みをお願いします。

日本代協の特別賞について、資料39ページです。今年度から始まった制度になります。4月20日までに地域担当理事より推薦書を提出すること、5月11日26年度第1回理事会において3代協を選定すること、選定代協の取組は、議事録に掲載すること、「日本代協ニュース」に掲載することが決まり、投票方式は多数決の方式で記名式を起用するという事になりますので、地域担当理事のプレゼンテーション能力は極めて大事だということになり責任を感じています。

2025年度の活力研に関して、2026年の3月に例年どおり第1回の活力研を開催いたします。議論のテーマは、自己点検チェックシートの取り組みに関してと、2027年度の代理店手数料体系に関しての話をすることになっています。

日本代協事務局から、日本代協の一般会員資格と会費の関連から会員資格の検討見直しについて検討がされています。ただ、この資格とか会費の関連に関して全国での一律の運用が難しいので、基本的に現状況に関しては、「2020年3月の会員資格、会費の考え方」に準用してください。

最後に津田監事からの監事講評。本日の理事会、ご苦労様でした。政治連盟のホームページが作られました。非常にしっかりとしたホームページができていますので、ぜひ見ていただきたい。会員さんから「政治連盟って何」とかいろいろ聞かれた時は、このホームページに案内していただいて、歴史と成果、事業計画、加入会案内、組織概要、役員、事務局の連絡先を出していますのでご活用ください。

質疑応答

Q：中田会長 「トータルプランナーの資格バッヂは廃止の方向ですか」

A:バッヂは存続します。顔写真付きの資格証が無くなる方向です

新潟代協桑原組織委員長より要望

新たな会員に向けての代協の明確に見えるメリットをご用意いただきたい

トータルプランナーと代理店賠責の次に来る3つ目の何かを。早急に次に提示していただきたい。

新潟代協木村委員長より要望

好取組代理店の取材によるコンテンツ作成が本年度をもって中止することは教育委員として共有されていない為、確認をお願いします。

【次回協議会開催日】

当初3月19日（木）の予定だったが、3月26日（木）に変更

【閉会の挨拶】中澤会長

皆さん、第3回上信越ブロック協議会。長時間にわたりまして、本当にご苦労様でした。会の運営に携わっていただきました新潟代協の皆様、本当にありがとうございました。雨宮理事、本当にありがとうございます。最後の方で、桑原さん、そして木村委員長からも出されましたご要望は是非日本代協にお伝えいただきたいというふうに私も個人的に思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。また、これらを通じて、やはり多く話題に出たのが支部の活性化についてです。退会が増加しているということもあります、やはり支部の活性化につきましては、3県共通の課題であるという認識でありますので、ぜひ次年度以降本格的に取り組んで行こうと思います。上信越ブロック協議会の場で成功体験や、いろんな事例を共有していくことで、この3県の支部活動がより活性化し、会員が増えていくということを本当に期待しておりますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。私の地元では乾燥していてインフルエンザが今非常に増えておりまして、当社でも何人か今インフルエンザで休んでおります。年末ももう近づいてまいりましたので、ぜひ皆さん健康にはご留意いただき、良いお年をお迎えいただきますようお願ひいたします。簡単ではございますが、閉会の挨拶とさせていただきます。どうも皆さん、本当にお疲れ様でした。